

[成果情報名] リモニウムの苗冷蔵処理による促成栽培（12～3月出し）技術

[要約] リモニウムの品種「スーパーレディ」は、1500ルクス・16時間日長の電照を行った5℃の冷蔵庫で35日間の低温処理を行えば、9月下旬～10月下旬定植で12月下旬～3月下旬に開花させることができる。

[キーワード] リモニウム、低温処理、開花調節、電照

[担当] 香川農試・花き担当

[連絡先] 087-889-1121

[区分] 近畿中国四国農業・花き

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

リモニウムの一季咲き性品種「スーパーレディ」は催花に一定期間の低温遭遇が必要であるため、出荷期間は4月～6月に限られており、周年を通じた出荷技術の開発が求められている。そこで、品薄となる12月～3月にかけて出荷するために、低温処理による開花調節技術を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 40日間養成した「スーパーレディ」のポット苗は5℃に調節した冷蔵庫で35日間以上の低温処理を行うことにより催花することができる（表1）。
2. 低温処理は1500ルクス・16時間日長となるように電照を行えば、株傷みや枯死を防止することができる（表2）。
3. 低温処理後、9月下旬～10月下旬に定植すると、12月下旬～3月下旬に開花させることができ、従来の加温促成栽培や無加温栽培と組み合わせることで12月下旬～6月にかけて安定的に出荷することが可能である（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 低温処理の効果は品種によって異なり、「スーパーレディ」以外の品種を用いる場合、予め、その品種に適した処理温度・期間を調査する必要がある。
2. 定植後の高温遭遇は低温処理の効果消失させるため、瀬戸内海沿岸では平均気温が25℃以下となる9月下旬以降に定植する。
3. 低温処理中の電照には蛍光灯（白色）を用い、苗との距離は10～15cm程度とする。

[具体的データ]

表1 低温処理の温度と期間が抽台に及ぼす影響

処 理 区	定植日	活着率	抽台率 ¹⁾	平均抽台日	
温度 (℃)	期間 (日)	(%)	(%)	(月/日)	
5	20	9/5	100	0	—
	35	9/20	100	100	10/22
	50	10/5	100	100	10/27
10	20	9/5	100	0	—
	35	9/20	100	0	—
	50	10/5	100	0	—
15	20	9/5	100	0	—
	35	9/20	100	0	—
	50	10/5	70	0	—
無処理	8/18	100	0	—	

供試品種：「スーパーレディ」 仮植：2000年7月7日

育苗：7月7日～8月15日 低温処理：8月15日～定植日

1) 抽台率 = 抽台株数 / 活着株数 × 100

表 2 低温処理時の電照が活着や抽台に及ぼす影響

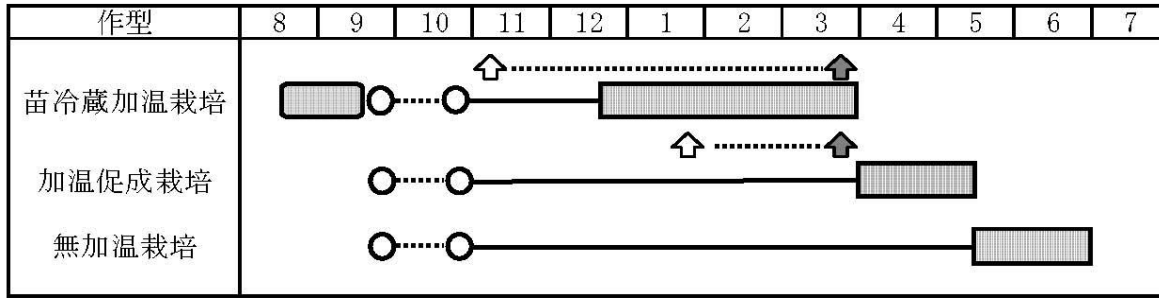
処理区	株の傷み ¹⁾ み度合	活着率 (%)	抽台率 ²⁾ (%)
電照有区	0	100	100
電照無区	2.3	40	25

光源：18W 蛍光灯 照度：直下の葉面部で約1500ルクス

日長時間：16時間 日長

1) 株の傷み度合：無 0～3 甚（枯死）

2) 抽台率 = 抽台株数 / 活着株数 × 100



低温処理
 ○ 定植
 開花
 ↑ 加温開始
 ↑ 加温終了

図1 暖地における作型例

[その他]

研究課題名：シュッコンスターチスの栽培技術に関する試験

予算区分：県単

研究期間：2000年度～2002年度

研究担当者：瀬尾龍右

発表論文等：瀬尾（2001）園学中四支部研究発表要旨 40:39